

分科会①「自分らしい生き方・働き方を実現したい～チャレンジする女性たち～」

仕事、地域、家庭など様々な分野で男女の固定的な性別役割分担意識にとらわれず、チャレンジしたい、社会参画したいという思いを実現できるようにするために何が求められるのか、事例発表を交えながら話し合われました。

●コーディネーター

今井 尚美さん（びわ湖放送株式会社 報道制作局次長）

●事例発表者

①夢をカタチにしたカフェの運営

（県立男女共同参画センター主催「女性のチャレンジ支援講座」平成21年度受講生）

彩菜かふえ 和茶庵 鳥谷 幸さん

②女性が生き生きと仕事を続けられる職場づくり

新江州株式会社 管理部人事グループ 前田 由香さん

（鳥谷さん）

- ・ 「将来、コミュニティーカフェをつくりたい」という思いを持っていたところ、偶然ラジオで聞いた「女性のチャレンジ支援講座」に申し込み、チャレンジショップへの出店にも挑戦した。
- ・ チャレンジショップの活動では、経営のことや家のことなど悩むことが多かったが、グループのメンバーでともに乗り越えて強くなることができた。メンバーの中には専業主婦もあり、初めは家の事も全てこなしながらショップにも関わってと大変だったが、次第に家族の協力が得られるようになった。
- ・ 大切なことは、思いを持って好きなことをやって、周りに感謝の気持ちを伝えること。感謝の気持ちを伝えることで、協力も得られ、お互いに良い関係が得られる。
- ・ 夢を語ることで、いろいろなところからお声をかけていただき、活動が広がった。無理だとあきらめずに、夢を語る事が大切だとわかった。最初の夢は「自分たちの店を持ちたい」だったが、今は、「何かにチャレンジしたいと思っている女性が一歩踏み出せるようお手伝いがしたい」という新たな夢が出てきた。



(前田さん)

- ・ 自分自身や周りも含めたレベルアップと魅力ある職場づくりを推進していくため、社内に「女性力活性化委員会」を設置し、女性による「働きやすい職場づくり」への提言などの場を設けた。
- ・ 委員会では、全女性社員へのアンケートを実施し、意見をもとに育児短時間勤務を小学校就学まで延長するなどの改正に取り組んだほか、全社員に興味を持ってもらえるよう、毎月1回委員会だよりの発行、育児・介護ハンドブックの作成を行っている。
- ・ アンケートで分かったことは、「現状維持型」と、レベルアップをしたい「キャリアアップ型」と、考え方が二極化しているということ。制度が整っているだけでなく、女性自身の仕事に対する意識の持ち方が大切だと思う。
- ・ トップの認識、管理職層の認識、女性自身が自らの就業意識について考えるきっかけをつくるといったことが今後の課題である。
- ・ 私自身は2児の母親であり、育児休業を取得したが、家族と会社の理解があって仕事を続けてこられた。家を出れば会社のことだけ、会社を出れば家のことだけを考えるようにしている。



(会場から)

- ・ 昇進を決めるとき、性別で決めることはないし、男性でも病気等で長期間休むこともあるため、育児休業の取得が昇進に影響するとは考えていない。最後は女性自身の気持ち。女性自身が一歩引いてしまわず、踏み出してほしい。

(質疑応答)

質問:自分の職場でも女性自身が管理職になりたがらない状況だが、どうしたらよいか?

回答:管理職というと「残業が多い」など負のイメージがあるからではないか。例えば残業などは管理職だけのことではないので、会社側として負のイメージをなくすような取組が必要だと思う。(前田さん)